

<総括研究報告>

地域・家庭環境の小児に対する影響等に関する研究

主任研究者 高野 陽

人口動態統計等に示されているわが国の母子保健の水準は必ずしも低いものではない。しかし、小児期の疾病像の変化や他の対人保健領域との関連において検討した場合には、真の母子保健の水準とは、如何なるものを指すべきかは議論の余地があろう。今後、この点を適切に追究していくためには、小児をめぐる多くの条件を検討する必要があると思われる。特に、小児の養育や環境条件に原因が存在すると考えられている心身の健康上の問題点の解明は、今日の情勢を考えた場合には無視できない点であろう。すなわち、今後の母子保健の研究領域として、より一層の充実した研究が望まれている課題ということになる。

この場合の養育や環境条件とは、物理学的・化学的及び生物学的環境条件に加えて、社会的及び人的環境条件をあげることができ、現在では、これらの条件に原因があって発生する問題が多く、ますます増加する危惧さえあるという指摘すらある。しかし、これらの条件は、時代によって変化しており、特に、現代では、その変化の大きさの顕著さには目を見はる状態にある。その結果として、時代背景に即応した問題点の把握に遅れが生じてしまう危険性を有している。このような事態が実際に起るならば、小児やその家庭にとって多大な不幸をまねくことになるとも考えられ、そのような事態の発生を極力防ぎ努力をしなければならぬ。

その意味では、この問題点の解決にあたっては、広い視野からの研究が必要と考えられ、多領域の協力下において研究を進め、それぞれの連携のもとに解決の実践を行うことが望まれる。この見地に立ち、出生前を含め小児期全般にわ

たる問題点を把握し、地域・家庭・学校と小児のあらゆる生活の場における問題解決の追求を行うため、次の4点より研究を進展させることになった。すなわち、

- 1) 先天異常の発生とその予防
- 2) 小児の発育発達やその促進
- 3) 小児の事故発生とその予防
- 4) 小児の健康障害とその予防

その具体的な内容としては、

- 1) 先天異常のモニタリング及び対策に関する研究（分担研究：有馬正高 国立精神神経センター武蔵野病院副院長）
- 2) 小児の発育発達に及ぼす地域・家庭の影響に関する研究（分担研究：高野 陽 国立公衆衛生院母子保健学部長）
- 3) 小児の事故とその予防に関する研究（分担研究：田中哲郎 東京医科大学小児科学教室助教授）
- 4) 小児の健康と養育条件に関する研究（分担研究：岡 宏子 聖心女子大学名誉教授）

となっており、その各々の研究成果の概要は次のとおりである。

- 1) 先天異常のモニタリング及び対策に関する研究

外表性の形態異常の発生原因と予防及びその生後の対策の改善を目的として、症候と原因の分析・発病率・流産や死亡例の解析・統計的解析及び対策や予後調査に研究グループを分けて研究が行われた。

妊娠初期の母体の有熱疾患と神経管閉鎖不全を伴う流産・重症心身障害の発生との関連が疑われた結果、病院単位・人口ベースの発生頻度

についての調査結果、養護学校・特殊学級等の在籍者の状態から学習や教育の問題点などの解析など、多くの興味ある知見が示された。

2) 小児の発育発達に及ぼす地域・家庭の影響に関する研究

発育発達は小児の最も大きな特性であるが、多くの要因の影響を受けることは知られている。しかし、地域・家庭の養育の変化に伴う時代に即応した発育発達の指導を行うためには、必ずしもこれまでの分析では不適切である。それ放次の4グループの研究によって、より明確な発育発達に対する影響条件の分析に努めた。①乳幼児の発育発達の縦断的研究（窪田英夫研究協力者）、②発育発達にみられる地域差に関する研究（東郷正美研究協力者）、③食行動からみた養育条件と発達に関する研究（八倉巻和子研究協力者）及び④乳幼児の発育発達に影響を及ぼす保育条件に関する研究（南部春生研究協力者）である。

全国規模の縦断的研究によって、乳幼児期の発育発達の新しい指標が得られることが期待され、現在使用の乳幼児身体発育値による評価をより有効なものとするのが可能であるとも思われる。一方、古くから発育の地域差は指摘されているものの、その原因については必ずしも適切な解決がなく、本研究が都市・農村部、全国的規模において実施されていることから、何らかの指標を求められることも期待できる。

養育条件は乳幼児の発育発達にいかに関与を及ぼすかを、食事という視点から追求し、食生活上の問題を有すを乳幼児の養育のされ方に問題があることを示唆し、保育所における保育形態の差による問題点を明らかにしている。

3) 小児の事故とその予防に関する研究

小児期の死亡のうち事故死の占める割合が多いことから、事故をいかに予防すべきかに焦点をあて研究が行われている。まず、事故の実態把握がなされ、事故死の統計的資料に基づいてその解析が行われていた。また、病院の救急外来・入院の事故例を分析して、事故の種類や原因を明確にしている。頭部外傷・異物誤飲・整

形外科的傷害の多いこと、小児科が必ずしも事故に関して関与していないことなどを示している。和歌山県一保健所管内における乳幼児の事故発生に関して母親に対するアンケート調査を実施しているが、その結果として、事故防止のマニュアル作成の必要性が既に強調されるに至った。それに対応すべき安全教育の方法の確立を図るための研究も実施されており、敏捷性の判定方法の開発・安全教育のあり方の基本的な研究が行われている。一方、小児期の事故のうち余り注目されていなかった口腔内傷害についても研究が行われ、歯みがき指導や食生活における問題点も指摘されている。

4) 小児の健康と養育条件に関する研究

非常に基本的な問題であるが、今日まで必ずしも明確な解決がなされたとはいえない領域である。さらに、この問題の複雑さは、時代・地域・家庭によってその条件が多岐にわたって変化し異っていることにある。特に、本研究においては、多領域からの研究協力によって行われていることも、この複雑さを反映しているものといえる。

虐待児の実態を全国的規模と大阪府内において調査されて、その実態に基づいて予防や対策の方向性が指摘されている。また、虐待などの問題の背景には家庭の問題が存在するが、そのなかでも家庭、父親の役割も重要な因子の一つと考えられるが、父親役割の分析研究も行われている。一方、子どもが人と人との係わりをもつ状態の発達については今日まで必ずしも明らかにされておらず、特に、現代の如き養育条件が変容したなかでは、よりその解明の重要性は強調されており、その問題点の分析を実施して新しい親子指導の方向性を導く研究もなされている。さらに、その係りの歪みの究極ともいえる家族内性愛の研究も行われ、その家庭像も示されている。

以上、4領域の研究が初年度に実施された。初年度という不利な条件にかかわらず、諸氏のご協力のもとに、それなりの成果をお示し頂けたことに大きな感謝の意を表すものである。また、評価委員の評価も十分に肝に銘じ、次年度以降の発展を目指したいと考えている。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



人口動態統計等に示されているわが国の母子保健の水準は必ずしも低いものではない。しかし、小児期の疾病像の変化や他の対人保健領域との関連において検討した場合には、真の母子保健の水準とは、如何なるものを指すべきかは議論の余地があろう。今後、この点を適切に追究していくためには、小児をめぐる多くの条件を検討する必要があると思われる。特に、小児の養育や環境条件に原因が存在すると考えられている心身の健康上の問題点の解明は、今日の情勢を考えた場合には無視できない点であろう。すなわち、今後の母子保健の研究領域として、より一層の充実した研究が望まれている課題ということになる。

この場合の養育や環境条件とは、物理学的・化学的及び生物学的環境条件に加えて、社会的及び人的環境条件をあげることができ、現在では、これらの条件に原因があって発生する問題が多く、ますます増加する危倶さえあるという指摘すらある。しかし、これらの条件は、時代によって変化しており、特に、現代では、その変化の大きさの顕著さには目を見はる状態にある。その結果として、時代背景に即応した問題点の把握に遅れが生じてしまう危険性を有している。このような事態が実際に起るならば、小児やその家庭にとって多大な不幸をまねくことになるとも考えられ、そのような事態の発生を極力防ぐ努力をしなければならぬ。

その意味では、この問題点の解決にあたっては、広い視野からの研究が必要と考えられ、多領域の協力下において研究を進め、それぞれの連携のもとに解決の実践を行うことが望まれる。この見地に立ち、出生前を含め小児期全般にわたる問題点を把握し、地域・家庭・学校と小児のあらゆる生活の場における問題解決の追求を行うため、次の4点より研究を進展させることになった。すなわち、

- 1) 先天異常の発生とその予防
- 2) 小児の発育発達やその促進
- 3) 小児の事故発生とその予防
- 4) 小児の健康障害とその予防

その具体的な内容としては、

- 1) 先天異常のモニタリング及び対策に関する研究(分担研究:有馬正高 国立精神神経センター武蔵野病院副院長)
- 2) 小児の発育発達に及ぼす地域・家庭の影響に関する研究(分担研究:高野陽 国立公衆衛生院母子保健学部長)
- 3) 小児の事故とその予防に関する研究(分担研究:田中哲郎 東京医科大学小児科学教室助教授)
- 4) 小児の健康と養育条件に関する研究(分担研究:岡宏子 聖心女子大学名誉教授)となっており、その各々の研究成果の概要は次のとおりである。